

今号では 2010 年 9 月号で紹介した 4 つの事例に引き続き、さらに eALPS を活用されている事例をご紹介します。また、実際に eALPS を使用している授業の様子をメディアコーディネータがレポートいたします。

特集 続 eALPS 活用実践事例

contents

e-Learning center newsletter No.6

Ⅰ 続 eALPS 活用実践事例

Ⅰ 事例 5 毎週、授業後に更新 + eALPS で成績処理も！	1
Ⅰ メディアコーディネータ Report	2

事例 5 毎週、授業後に更新 + eALPS で成績処理も！

情報提供：【コミュニケーション・イングリッシュⅠ（上級）】全学教育機構言語教育センター BRIERLEY, MARK ALAN
ブライアリー先生は、共通教育の英語の授業において eALPS をご活用いただいている先生のお一人です。資料の提示や掲示板などの基本機能の利用はもちろんですが、標準からより用途にあった設定に変更したり、評価の機能を利用して成績処理を行ったり、一歩進んだ使い方をされています。今回はその一端をご紹介します。

ウィークリーフォーマットの活用

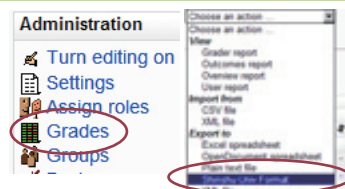
ブライアリー先生のコースのトップ画面は、e-Learning センターが設定した標準とは異なり、「ウィークリーフォーマット（Weekly format）」になっています。このフォーマットにすると、15 週分の日付が入った区分が自動的に作成されます。ブライアリー先生は授業後に、授業の概要や感想、宿題や連絡事項などを書き込んだり、小テストをアップしています。これにより学生は、全て英語で行われるブライアリー先生の授業の内容や宿題を eALPS 上で再確認することができる上、欠席した授業を補完することもできます。なお、ブライアリー先生がご担当されています eALPS 上のコースでは、メニューなどを英語表示にし、英語学習にふさわしいページに工夫されています。



*画面の設定や言語の変更は「設定（Settings）」メニューから簡単に行えます。

信州大学学務システム提出形式で評価を出力

ブライアリー先生は、成績処理にも eALPS を大変活用されています。掲示板への投稿や小テストの結果をもとに S から D までの評価をつけています。評価の設定や表示は左メニューの「評価（Grades）」から行います。この中の「信州大学学務システム提出形式（Export to Shinshu-Univ Format）」は、ブライアリー先生のご要望を受け、e-Learning センターが eALPS に追加した機能です。これにより、評価結果を S から D の文字に自動的に変換して出力することができます。



interview

eALPS を使って、英語でコミュニケーションを

英語学習において、どのような効果を期待されて eALPS を活用されていますか？ また実際の学生の反応はいかがですか？

eALPS を使う主な理由は、①学生のデジタルリテラシー向上、②コンピュータやインターネットによる学生間の充実した生のコミュニケーションの実現、③成績や課題の透明性の確保です。

外国語教育では練習が重要です。山々に囲まれている信州では、英語を日常的に練習する機会がありません。しかし、掲示板のようにオンラインで宿題を出すと、教室外でも学生同士が英語でコミュニケーションを自然にとることができます。



学生からは、「コンピュータは面倒くさい」という声もありますが、それはもしかしたら「宿題は面倒くさい」という声と一緒にかもしれません。「オンラインで、授業で学んだ概念を復習したり宿題ができていい」と言う学生もいます。コンピュータで仲間と意見交換できることやシステムを使いこなせる機会があって学生はありがたいのではないのでしょうか。

eALPS での成績処理は、どのように行っていますか？

以前は eALPS の成績項目をダウンロードして Excel にコピーして処理をしていました。今は追加された機能を使って、ダウンロードせずに eALPS 内で集計しています。eALPS のカテゴリ機能も便利で、授業を進めながら、学生の幅広い行動について、透明に成績を計算できます。

先生方に特にお勧めしたい eALPS の利用方法はありますか？

掲示板は単なる意見交換だけでなく、様々な課題を出し、採点して成績をつけるツールとしても利用できます。例えば、テーマのブレインストームや選択、アウトラインやパワーポイントにまとめた内容の提出、他の学生の発表へのフィードバックなどを全て掲示板で行うことができます。

小テストは試験だけでなく、学生の意見を聞くツールとしても使えます。また、学生にテストの作り方を教え、各班一人の学生に教員許可を与えて小テストを作らせることもできます。



BRIERLEY, MARK ALAN

メディアコーディネータ Report

昨年、e-Learning センターが繊維学部・農学部・教育学部で開催した eALPS 説明会では各学部ごとで、e-Learning に対する先生方の要求の違いを実感しました。そこで現在、普及しつつある eALPS が各学部でどのように活用されているのか？をメディアコーディネータがレポートします。今回は工学部情報工学科、國宗先生の授業の様子をお伝えします。

一人に一台ノートパソコン！

前期金曜日2限、2年生を主とした111人という大勢の学生が履修登録する「プログラミング言語2」の授業が情報工学科棟2階講義室で行われていました。前面の3つのスクリーンには eALPS の授業コース初期画面が投影されています。これはどの学部でもよく目にする授業風景ですが、教室に入っただけで目についたのは、学生全員が机の上に自分のノートパソコンを広げ、eALPS にログインし、授業が始まるのを待っている姿でした。一般の教室がパソコンルームにでもなったかのようなこの光景に、情報工学科ならではなか？プログラミングの授業だから？パソコンを持参して来るようにいわれている？などの疑問が浮かびました。しかし、國宗先生からの回答は「パソコンがないと一日何もできませんので、学生は必ずパソコン持参で登校します。だから他の授業でも当たり前の光景ですよ」とのことでした。



【非表示】の機能を効果的に活用

「eALPS は教材の提示に加えて、アンケートやミニテストなどの用途で授業支援のために利用しています」という國宗先生。準備は授業前までに当日使用する資料を eALPS で閲覧できるように用意し、非表示にしておくだけです。「以前使用していたシステムでは、資料が全て見えてしまっていたので、学生が説明に耳を傾けているのかどうか不安でした。しかし、eALPS では目を閉じた状態の【非表示】機能を使用することにより、説明している間は学生に教材を見せないことができるので、私の話に集中してもらいやすくなりました」ということです。ちょっとした機能ですが、こんなに活躍しているなんて驚きました。

統計結果をただちに授業づくりへ活かす！

授業冒頭では eALPS の【投票】機能を用いて、前回の授業の重要ポイントの理解度を測ったり【フィードバック】機能を使って意識調査をしたりもしています。「eALPS では、すぐに統計結果が出るので、学生の理解度に合わせて授業で話す内容を変えるなど、インタラクションを発生させることができるようになった」といいます。また、「結果がすぐに反映されることは、教員にとって、怖くもあり、面白くもある」といい、統計結果をただちに授業づくりに活かすことは授業内容の充実や学生の質の向上にもつながっているようです。

シンプルな機能で質が向上！

國宗先生の授業では、全ての学生がノートパソコンを一般の教室に持参し、eALPS を通した双方向の授業をしています。これは学生が100人を超す授業でも一対一と変わらぬフォローが実現できるという理想的な形の授業展開のようでした。また、eALPS のシンプルな機能をタイミングよく組み合わせることによって効果的な結果を生み出している授業を実際に拝見させていただくことにより、訪問前の「情報工学科だから高度な機能を使って難しいことをやっているんだろうなあ」といった固定観念は覆されました。eALPS は基本的な機能でも、使い次第でより効果的な授業支援ツールになるということを改めて実感した取材になりました。

工学部情報工学科 助教 國宗永佳



eALPS の使い方は自由自在！これからも先生方のアイデアあふれる活用方法をメディアコーディネータがレポートさせていただき、e-Learning センターを通して、情報を共有化していけるよう事例紹介していきたいと思います。こんな使い方もあるよ！という方、是非お声をください。問い合わせ先メールアドレス：elearning@shinshu-u.ac.jp



学外からの電子ジャーナル利用がより便利に！

6月15日から以下の電子ジャーナル・データベースが手続き無しで学外から利用できるようになりました。ACSU に業務 ID でログインし、「eALPS サイト一覧」の「GakuNin」タブから利用できます。

▽ CiNii ▽ EBSCOhost ▽ SciVerse ScienceDirect ▽ SpringerLink ▽ Web of Knowledge

詳細は右の URL をご覧ください。 URL <http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/e-information/r-access.html>

